

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	産業研究所
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置 (院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント (FD) の実施状況と有効性

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告 (2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究プロジェクトの構成は、研究員の所属が偏らないようにする。	→新規の研究プロジェクトの構成は、研究員の所属が3部局(学部・研究科)以上とする。	B	A	A	B	/
2. 研究プロジェクトの構成は、本学教員に限らず、学外からも専門家を客員研究員として加える。	→新規の研究プロジェクトについては、客員研究員が2名以上加わる構成にする。	A	A	A	A	/
3. EUIJ 関西事業の推進のために、EU研究者を教員として、産業研究所に配置する。	→2010年現在欠員のEUIJ 関西事業を推進する教員1名を2011年度に配置する。	C	A	A	A	/
4. 学外機関や社会との連携を深めるため、産業研究所で研究活動を行う受託研究員・学外研究員を受け入れる。	→産業研究所で研究活動を行う受託研究員・学外研究員を毎年1名以上迎える。	D	C	C	C	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	①「日本の国際開発援助事業」の研究員構成は経・国際学部、および学外者、②「公共インフラの整備と地域振興政策の推進」の研究員構成は経済・商・総政学部および学外者、③「生産性の現代的意義」の研究員構成は経・商学部および学外者を迎えて研究活動を行った。
目標2	客員研究員としてではないが、学外からの研究員として①「日本の国際開発援助事業」はJICA・JETRO、海外技術者研修協会、②「公共インフラの整備と地域振興政策の推進」は鹿児島大・島根県立大等、③「生産性の現代的意義」はパナソニック・関西生産性本部・レンゴー等の企業・団体に所属する方々を迎え、各共同研究プロジェクトに於いて研究活動を行った。
目標3	2012年2月に公募を開始し、2012年秋学期より市川 顕准教授(任期制A)を迎えた。
目標4	学外から他大学の研究所や企業に於いて実務に携わる18名の研究者を共同研究プロジェクトの研究者として迎え、研究活動の活性化を図った。
備考	